

自己評価		評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
安心・安全な学校づくり	(全校レベル) II) 事故防止、感染症予防対策の徹底 <下位組織レベル> ① 生徒情報の共有及び事故防止対策の徹底	評価指標 ① 学部内でのアンケートにより生徒の事故防止対策や健康状態等について、教員間での情報共有ができた、と答えた教員が80%以上となる。 活動計画 ①-1 学部会および終礼において全生徒の情報交換を行う。欠席者には記録を回覧し全員に周知を行う。 ①-2 アクシデントが起きた際、発見者は、すぐに学部長または管理職に報告し対応する。学部長はインシデント・アクシデント報告書作成の判断をする。必要に応じて聞き取りを行い、報告書を作成し、管理職と共に再発防止策を検討する。 ①-3 アクシデントは学部会や終礼で報告したり、報告書を全員に回覧し、注意喚起や事故防止対策を検討し実践する。 ①-4 年度末に教員アンケートを実施し、達成度の確認と次年度への課題と改善策を検討する	評価指標の達成度 ① 情報共有ができたと答えた教員が80%以上となった。 活動計画の実施状況 ①-1 学部会及び終礼において全生徒について情報交換を行った。欠席者には記録を回覧し周知を行った。また緊急度の高い情報については職員報知で周知を行った。 ①-2 報告があった際、インシデント事案について管理職と情報共有を行い再発防止策の検討を行った。 ①-3 学部会や終礼で報告したり報告書を回覧したりして再発防止に努めた。 ①-4 2月末に実施し、次年度への課題と改善策を検討する。	総合評価 (評定) B (所見) ① 校内での健康状態や家庭や外部サービス先等での情報を含め、生徒状況について学部内で情報共有を行った。 インシデント事案については、学部内で情報共有の上、協議を行い、再発防止に向けての対応策を検討した。年度途中よりインシデント事案は見られなくなった。	別紙	① 引き続き情報共有を徹底し、事故の未然防止に努める。事故が発生した場合の対応策について検討し、対応できる準備をしておく。
		評価指標 ① 生徒の実態に応じて「朝・給食・帰りのチェックシート」または「清掃チェックシート」を活用して個別の指導計画の目標を設定し、目標を達成した生徒が全体の80%以上になる。 ② 個別の教育支援計画による教育的ニーズと現在の生徒実態を把握し、学部全体で情報共有しながら個々の課題解決を進める。 活動計画 ①-1 「朝・給食・帰りの会チェックシート*小学部」「清掃チェックシート*高等部」を年間に1回活用して指導目標の設定を行う。 ①-2 学年および生徒実態に応じて日常生活の指導のグループ編成を行い実践の向上を図る。 ①-3 定期的に報告会(年間2回程度)をもち、進捗状況を確認したり指導方法の改善を検討する。 ①-4 個別の課題について報告会で提案し、指導方法のアイデアを出し合い課題解決につなげる。 ①-5 年度末の個別の指導計画評価後に達成度を確認する。 ②-1 生徒個々の中心的課題について年度当初にアンケートを取り、自立活動の時間における指導の目標設定の参考とする。 ②-2 コンサルテーション事業や外部専門家(PT・OT・ST等)を活用して具体的な指導方法について助言を受け課題解決を図る。 ②-3 学部会および終礼において特別な配慮が必要な生徒について情報交換を行う。	評価指標の達成度 ① チェックシートから個別の指導計画の目標設定に設定し、目標を達成した生徒が80%以上であった。 ② 個別の教育支援計画から中心的課題を抽出し、自立活動の時間における指導の時間において情報共有を図りながら課題解決を進めた。 活動計画の実施状況 ①-1 チェックシートを活用して指導目標の設定を行った。 ①-2 生徒実態に応じて日常生活の指導グループを編成し、年間を通して1時間/週の実践を行った。 ①-3 2月末に1回報告会を持ち指導方法について検討し次年度への引き継ぎとする予定。 ①-4 報告会を持つことはできなかったが学部会や終礼で出た個別の課題について指導方法のアイデアを出し合い解決につなげることができた。 ①-5 3月に達成度を確認する予定。 ②-1 個々の中心的課題を元に学習グループを編成し、指導の目標設定の参考とした。 ②-2 年間3回外部専門家による助言を受け指導の参考にすることができた。 ②-3 学部会および終礼において情報交換することができた。また必要に応じて外部福祉サービス事業所とケース会をもち課題解決を図ることができた。	総合評価 (評定) B (所見) ① チェックシートを活用した指導目標の設定は有効的である。報告会の機会設定など運用面について課題があった。 ② 自立活動の指導において中心的課題から目標設定とグループ編成を検討することができた。各グループにおける指導内容の検討について改善の余地を残す。	別紙	① チェックシートは継続して活用する。報告会の主体となる課が運用できるシステムを検討し、次年度当初に引き継ぎを行う。 ② 中心的課題を元にしたグループ編成と目標設定は継続する。指導内容についての妥当性についての検討を図りたい。
多様性を育むキャリア教育の展開	(全校レベル) II) 卒業後を見据え、成長に応じた指導内容の精選 <下位組織レベル> ① ポジティブな行動支援により小中高につながる学びの推進と情報共有 ② 生徒の中心的課題の把握と個々に応じた教育実践	評価指標 ① 学部内のアンケートにおいて地域と連携した教育活動および交流活動が教育課程に位置づけられたと回答した教員が80%以上になる。 活動計画 ①-1 地域の事業所と連携した教育活動を2カ所以上行う ①-2 地域との学校間交流を2校以上行う ①-3 地域人材を活用した交流活動を2回以上行う ①-4 特別活動および生活単元学習において事前・事後学習を行い学びを深める ①-5 年度末に教員アンケートを実施し、達成度の確認と次年度への課題と改善策を検討する	評価指標の達成度 ① 教育課程アンケートにおいて肯定的な回答が80%以上であった。 活動計画の実施状況 ①-1 阿南市内の事業所2カ所と連携した活動を行った。 ①-2 2校との交流及び協同学習を行った。 ①-3 1組の地域人材を活用した交流活動を2回行った。うち1回は学校外で行った。 ①-4 各活動の日程を調整し、事前事後学習に必要な期間を設けて実施した。 ①-5 3月初旬に実施する予定。	総合評価 (評定) B (所見) ① 事業所との連携事業により進路指導につなげることができた。学校や地域人材を活用した活動により生徒の社会参観への意欲の高まりや社会性の向上につなげることができた。継続して実施できる体制ができてきた。日程調整が不十分なところがあった。	別紙	① SDG's、インターンシップ事業を活用しながら事業所との連携を継続して行う。年度当初から3ヶ月内に各活動の見直し等日程調整について検討する。
		評価指標 ① 地域と連携した教育活動および交流による社会参加への関心と意欲の向上 活動計画 ①-1 地域と連携した教育活動および交流による社会参加への関心と意欲の向上 ①-2 地域との学校間交流を2校以上行う ①-3 地域人材を活用した交流活動を2回以上行う ①-4 特別活動および生活単元学習において事前・事後学習を行い学びを深める ①-5 年度末に教員アンケートを実施し、達成度の確認と次年度への課題と改善策を検討する	評価指標の達成度 ① 教育課程アンケートにおいて肯定的な回答が80%以上であった。 活動計画の実施状況 ①-1 阿南市内の事業所2カ所と連携した活動を行った。 ①-2 2校との交流及び協同学習を行った。 ①-3 1組の地域人材を活用した交流活動を2回行った。うち1回は学校外で行った。 ①-4 各活動の日程を調整し、事前事後学習に必要な期間を設けて実施した。 ①-5 3月初旬に実施する予定。	総合評価 (評定) B (所見) ① 事業所との連携事業により進路指導につなげることができた。学校や地域人材を活用した活動により生徒の社会参観への意欲の高まりや社会性の向上につなげることができた。継続して実施できる体制ができてきた。日程調整が不十分なところがあった。	別紙	① SDG's、インターンシップ事業を活用しながら事業所との連携を継続して行う。年度当初から3ヶ月内に各活動の見直し等日程調整について検討する。

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった